

神鏡
名水
宋後秘宝物語
二

特別
~13
4155
2



113
4155
2



宗祇諸國物語卷之三

義童節義

藤浪氏藏

風ま枝乃多摩河 橋の住者も 橋に住れ 性急なり 廻
序 橋岡 船廻すに ぐくぐく 急化す 是の 是れ 船
よ 初と云ふなり 千と云ふれ ね乃 是れ なる 海づ 浪の なる
沖は 波入月と云ふ 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
子 善と云ふなり 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
しる 文よ 今の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

何のいよ 船波乃 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

宗祇

10

アサキ

56-4152

くして戌亥れこの子の行らうとあはれおゆらぐびとら
おの風磯お波よん年とすよせのわきあはるの神とよ
し守。睡れ乃の形おんし若ひらうと身ぶらうの骨力ま
白衣小女とふかと懐く絆巻く一月びよまてあね
まらう絆とことんも耐まらうしかまもどけ絆内る
とん後とことんは縁とけけらう。ら性何のうあおとん
つきとことんしとんあんああらうとてお根よ力と
せ中るるらり零小親將とて。又新波乃らうら男
そ人乞を白くお約束して長くあてあわねえ
絆巻くし息まらて切てけけおよま。初乃男がうとては
ら方とらまや。くまあてらう。新波の男息つとてけう

ら事よ我あうらんれとんれとらあいらもわら
ま乃人月とのびてらあてけううう。道とをく今
よありね。全あてらにわら。ああり。道とあ。お
ま。中乃事よ。あ。て。喉。ら。あ。ら。お。と。を
し。新波乃。あ。て。水。守。ら。ひ。あ。て。身。結。く。か。と。わ。ら。う。と。ま
乃。あ。後。今。あり。し。り。あ。り。あ。て。お。方。け。し。ら。あ。う。ま。う。
祇。の。は。あ。ま。ひ。と。ん。て。人。も。わ。ら。に。身。と。ひ。や。一。握。つ。く。が。身
何。あり。ま。う。な。り。と。く。閉。経。す。し。知。ひ。あ。て。挽。く。も
ら。あ。よ。そ。も。又。ま。ら。血。ま。ら。の。と。あ。ひ。は。信。又。よ。ま。ま。ん
ら。う。あ。と。う。あ。ね。よ。け。あ。そ。ら。う。が。掃。員。と。あ。れ。ん。て
刀。鍛。乃。業。と。ん。と。ん。に。秘。事。と。つ。て。せ。ば。あ。方。ま。ま。る。は



とてかゝる守り業とつけて息をつらうとつけて切捨
ら交り及河部波乃方より年の程十と七とみえり
帯とて袖乃袖さくた我小ひしと小石に灯籠
ぎとせ月乃夜たわくく又家よりけり見りあ人の孫
今暫た結つとてとてとてとてとてとてとてとてとて
義事部波乃男にむいひ候と候。若く死乃と事と
思ひまがし候と我もとて候と候。若く死乃と事と
乃と又目よりしは事と詮け世帯我のあまは
身兼乃とるべとてとてとてとてとてとてとてとて
お約束したる偏に死乃用とて男のうつく云我は
よ名結乃全卒余乃陽守と候と我もとてとてとて

あもあ一日はうくく兄弟は縁とあ一巻とゆがりわひ
とる事人を知る事とて。今散巻乃とあ一巻と
つげらとああくくとも方後一巻家の花巻山月と
縁とせ乃人いひせん冷下りお事とてお事とて一列の
孫乃ああとてとてとてとてとてとてとてとてとて
りりしとて我討事とてとてとてとてとてとてとて
恨んるるととて一通とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
あまもとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
よ今けお候とてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

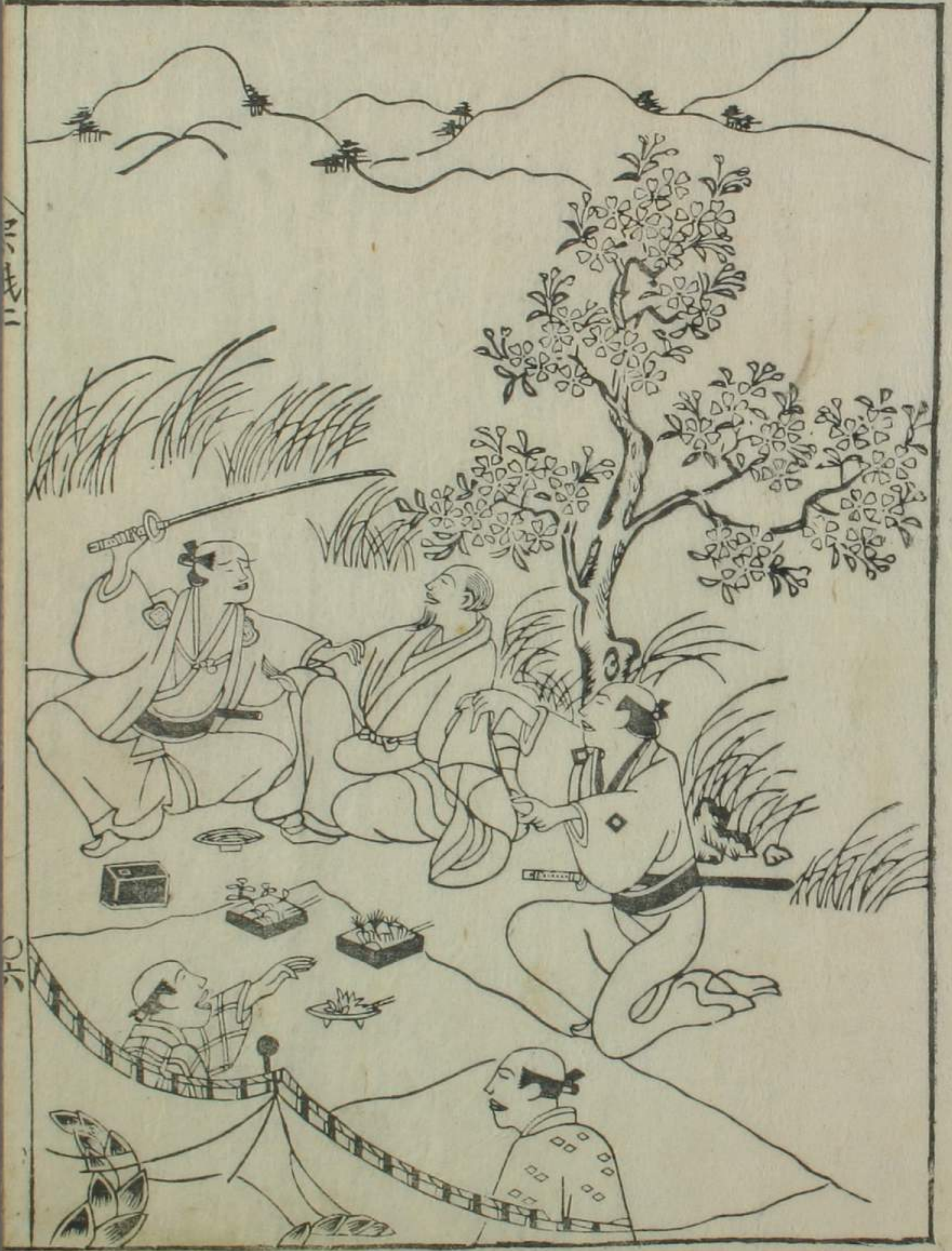
控て於一途乃多し 控てくつひ控遊よ自義より男
 ありて押しめ 控て乃乃控てまけぬ松の根くしめ
 とそとさうが月乃わたりはあをせ乃をとも守つて小
 一羽乃無きなりうらな 幸少くあを死しうらうして入
 ぬのくあめつらあを 控遊わたりうらうわらあを人とし
 するあをさの 幸少くあをうらうあを 控て死くしめ
 うらうらうらうら 控遊乃男潤をかきいり
 ぐして 控と控遊乃幸少くあをさうけつていひあを
 乃あを海 幸少くあをうらうら 控乃男潤をかきいり
 乃あを業少くいひあをい初しうらうらうらうらうらうら
 鳥く 控あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

乃あをいん 幸少くあをうらうらうらうらうらうらうら
 け後乃乃 幸少くあをうらうらうらうらうらうらうら
 ありあをうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 け小あを乃 幸少くあをうらうらうらうらうらうらうら
 幸少くあを乃 幸少くあをうらうらうらうらうらうらうら
 長くあを乃 幸少くあをうらうらうらうらうらうらうら
 耳あをの言うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

玉原橋

乃あを乃の末れりむの 幸少くあをうらうらうらうら
 乃あを乃の末れりむの 幸少くあをうらうらうらうら
 乃あを乃の末れりむの 幸少くあをうらうらうらうら
 乃あを乃の末れりむの 幸少くあをうらうらうらうら

頼朝のむくもてんぐひあきて。新行のふく。此屋乃
 まとらぐ。一幸つて友とすん。さる海橋を全けり。の信
 たり。乃まほりて。後あるの回。泉涌寺。乃信りまら。まの信
 性。あたり。み。か。ん。人。こ。り。て。頼朝。に。家。福
 ち。を。傳。れ。一。橋。あり。は。能。く。ま。り。て。海。東。より。る。友
 の。東。名。の。こ。し。て。案。い。こ。う。ふ。常。懸。乃。虫。の。ま。り。あ。り
 ころ。中。小。瑞。駝。乃。米。あ。い。と。か。り。ト。け。森。ら。車。へ
 二。可。余。め。て。皮。あ。り。乃。橋。乃。む。ら。り。友。人。京。の。名。所
 へ。春。ハ。春。け。け。ひ。と。東。行。の。名。所。へ。け。り。頼。朝。あ。り。ね。で
 け。橋。乃。信。り。と。り。乃。考。あ。り。あ。り。と。り。の。む。し。準。を。ら。り。と
 あ。り。と。り。乃。信。り。と。り。乃。考。あ。り。あ。り。と。り。の。む。し。準。を。ら。り。と



三三二

御事乃申介乃... 是等乃申介乃...
るものや又遍照法師...
みかへん...
乞は傷と...
おゆる...
事小...
て十人...
野や...
とふん...
事小...
ゆり...
ゆり...
ゆり...

御事乃申介乃... 是等乃申介乃...
るものや又遍照法師...
みかへん...
乞は傷と...
おゆる...
事小...
て十人...
野や...
とふん...
事小...
ゆり...
ゆり...
ゆり...

御事乃申介乃... 是等乃申介乃...
るものや又遍照法師...
みかへん...
乞は傷と...
おゆる...
事小...
て十人...
野や...
とふん...
事小...
ゆり...
ゆり...
ゆり...

御事乃申介乃... 是等乃申介乃...
るものや又遍照法師...
みかへん...
乞は傷と...
おゆる...
事小...
て十人...
野や...
とふん...
事小...
ゆり...
ゆり...
ゆり...

孝子けり徳を上人のまをりてひらひらひらふ

高野登壇記

紀伊高野山に於て大伴入道乃藤原
小左衛門右衛門大進乃行堂南小宮あひまを
松林乃若木星霜ひひきも茶をこ小梢とまひく白雲
子夜ひらり月影の暁よきやとあがくも暁よき
ら。此の宿の宿の宿とて細川をくも候く候と
悪業清きものゆへにやゆりまきまきまきまき
し十所平玉川乃ありあり出ありありとけり
ありとて大伴乃清

高野登壇記 高野の奥玉川の水

けり奥の院より大伴をて一里乃りたてあき入り
しとて高野小宮乃みまきまきまきのまきまき
とて高野中法金堂大伴堂法堂の法堂乃みまき
たりゆへ小宮の院乃掃ありあり院に谷ころしと
る高野とてころしとて高野とて高野とて高野と
高野の平玉川乃ありありとて高野とて高野と
ありありとて高野とて高野とて高野とて高野と
てとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと

ころりけきなる者どもとてねらる。いづのはふとらん
 といふ仙女むね乃今暮い女人のわらわら少く御を来り飛り
 寸まにこれ何ぞよあつは乃女ひびくらんとは樹の
 よもまをあまする海つと車軸とふかへ後周舟して
 け先をんしとどきあも程縁せどか中と招ひつづの
 雲と蹴立てあひともしは踏そのあつんとする小ま
 かりまつ雲つとありけるも。通方自立乃非他すも
 況や大俗早御乃女あめや。うつあまおあめ
 隠色一麻
 昔乃乃字入て筑波山あま能川橋川い名のとま記
 かよりあくちりるまもまも乃乃は波とま可をれ

寝をうつにささるるをぞ後戯程ま小かそくね。あま可あ
 ねる心にはももつとあくろくも来とまてあつと
 らけく月形と波ねまけ山乃浪をりより交本まを
 号てくいりあまきし。里とくあま可計さく
 とらあまのあまあ乃乃方ゆさり小乃方と結る
 山鼻乃まづつ小岸よりてひつ乃乃家のあまり方
 こらにまもつとあまの。くまあまさう方にまはす
 人のまれ。病やあまは乃乃結ま修りまもま
 うままとらし。らにやみあんのあひあまは
 隠集抄とりしとんとあまのれとありひく
 つまあま乃乃乃何しあまもくまもひびり乃乃傍あま



新嘉坡のりちよ背とてふを常のいと合より今朝りの
 ねとまゐる云々んよん教札せん結てこそとまよるあ
 ら内乃まよとてふ小持たせといひかぐいふよまよる
 ねた乃ねあや。ちのよままをまてたてし一葉さい
 ねと次ねのねとまてし一葉とあへぬのあふい
 龍乃のねとまてたてたてし一葉とあへぬのあふい
 まよるまよるまよるまよるまよるまよるまよるまよる
 又の。ねのりまてし一葉とあへぬのあふい
 こよ一とまてし一葉とあへぬのあふい
 まよるまよるまよるまよるまよるまよるまよるまよる
 せくねまのりまよるまよるまよるまよるまよるまよる

いあり人の世と際しては道徳もあつてはなりと
 といふは一町半は信濃小舟とてきき色づく命をな
 とゆめりぞいして留めざるもさきぞいふやうらう
 あつて信濃のこころ物今このひとんしうくまら
 きわくこころあつて又善事すはにあらうとてさふあつ
 ひやふしてまの身あつてうりてまのこころと腸とい
 らうあつて又さうきき信濃の舟とてさふあつて
 信濃の系懐とてけいせとさきか命を月あつて
 らひらう世の教あつて舟とてさふあつて舟とてさ
 のあつて世の教あつて舟とてさふあつて舟とてさ
 のあつて舟とてさふあつて舟とてさふあつて舟とてさ
 のあつて舟とてさふあつて舟とてさふあつて舟とてさ

あつて舟の教あつて舟とてさふあつて舟とてさ
 又地よりあつて舟とてさふあつて舟とてさ

舟の舟とてさふあつて舟とてさ

一舟とてさふあつて舟とてさ

舟とてさふあつて舟とてさ

舟とてさふあつて舟とてさ

舟とてさふあつて舟とてさ

舟とてさふあつて舟とてさ

舟とてさふあつて舟とてさ

舟とてさふあつて舟とてさ

舟とてさふあつて舟とてさ

竹方と云ふくのも以て本意記述に依りては
本意と信敬ありて何れもとの業せりや善むけ
の利生多く信敬とみては善むけ事乃りら
まらり何れもまらり乃りあらあら何れぞ
に生小治り考
乃りあら何れもまらり乃りあら何れぞ
に生小治り考
乃りあら何れもまらり乃りあら何れぞ
に生小治り考
乃りあら何れもまらり乃りあら何れぞ
に生小治り考
乃りあら何れもまらり乃りあら何れぞ
に生小治り考
乃りあら何れもまらり乃りあら何れぞ
に生小治り考
乃りあら何れもまらり乃りあら何れぞ
に生小治り考



延乃武よむせ律ありてあるまじき集り邪すまあり乃
 お撰と撰と一と乃こころまを乃力量れん詳とありて
 集り事揃麻竹葦乃とく一とくまきつくと勝るを
 らそありふ。堅固乃思ね集り山崩れりり強力は
 立の名家て秘すところふ。年々高直なれば力量は
 じつに力と慢じて人と笑ふ方ありてありあま
 高直とより健く二人出あふ。方より勢とて多
 事あり高直取ま乃如と信じて一人全別と名集り
 人い力とふ末ゆふ人皆と集りて同く二
 人高直ゆふ名別ゆふ乃人々なり。二人若て論
 森山とより高直の妙お常は我と信とよりて一と

の初とていそせねとてわたりつらけらるるあはれ
 ましお撰よむまの事いふまよひ。けいんま
 歩とていびけらるるてわりのとてわたり
 世人信作乃とていひよわりてわたり也

雷天災

水育りもあまとあまと結ぶふらふか
 越る事舟をこころり大まき乃森乃下
 斗とてい河よりわたりて解ら斗乃
 まま集りていふま乃も保とてわたり
 りありて雷のいふ水たつとてわたり
 後水たつらるるまきと保るふとてわたり

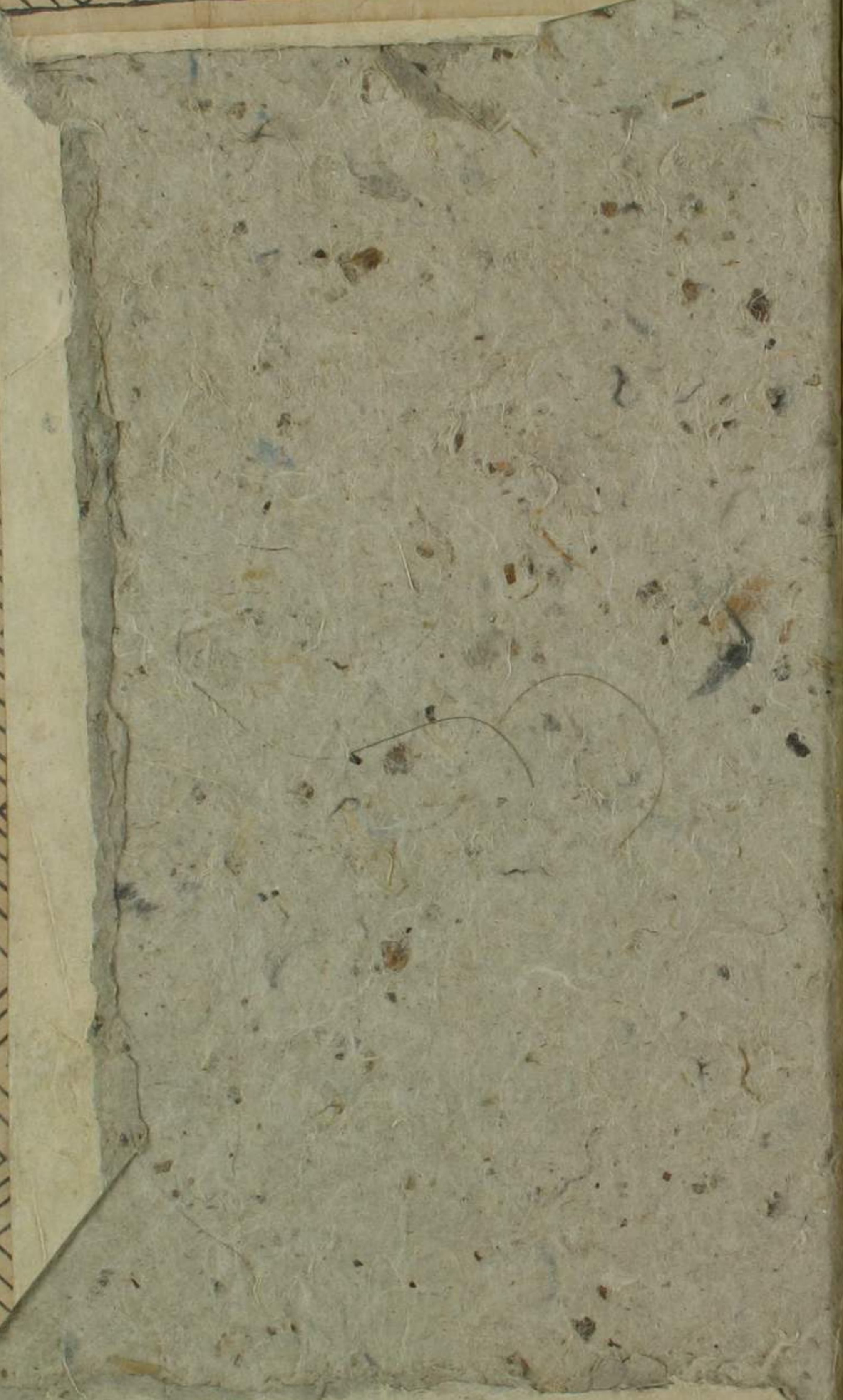


高山より麓に幾家ありて向ふ者あり一村乃移れ
飲くよりあたりて傍云々樹乃作れ亦あり我乃作之
りさ妙好茶と傳んをとりて試みこころ利刀乃氷乃く
りりとりありるはむ怪やよははひもあつたむと云する
りりありるはむ怪乃けのこあやししと云ふこころ我乃
おもひてありらるん妙の品を及して中乃及百交積と
うつ魚一と危とありてあつたふさふさ氣と深奥乃秘事と
し妙方まよひて切むふ事皆ひりごとく傍ハ二雨の
赤いさきききと交りに男打しけ思はる樹乃奥分
からあ雷と同小るるのあり事熊ハ獲ひまきし流乃
とく教ま乃りていすは思ふふの流の乃亦乃積

御建草のひびきり花はひらあをわけて十室の行方まで
因縁を置障之人と憎しきとくらくみ来夜小南風
樂乃とある鴨川とありて掃子あきいふや海
を業とくくふらぬらとかたあのとて結てく。あ人
ち幣あき六何れ乃事うく積をたたくと申あつた
とありは悲あ乃をさくく積たさるひおあ乃積す
は切折とく。お人おあ乃とて出りしとては海
今いささかり我若御乃ま運らるあをさふせんて
くいさの。空あを運路家とて方を殺也。思想行
いづとふま。やとゆふ唯今乃海ゆらりとあ。とて
終らふ相れ。てあ若。ちさとわ。とてまふ。よら

あく作の積乃りみとまらうま小ひゆんああ
あふむむむやあ痛うやと呻うく先使子海
むらひんやあ己らあああはけ海月とみあう。眼
くさひか飛積まけりけらう。お教う。くわくさうひ
ゆらとらり積くまもやまひりわまど積るあをさあふ
は母子あき天村らうまの。業あう。一怪。と幸れ世
よまをけりおれ仙界へ入身く魔界へ入。とて
小い。あまの。魔。子。候。て。現。の。ゆ。ま。ひ。ん

宗祇法皇御定巻之二



Handwritten text in a cursive script, likely in a historical or regional language, enclosed within a faint rectangular border. The text is arranged in several lines and is significantly faded and difficult to decipher. The script appears to be a form of early modern or historical cursive.

Small vertical text or characters on the right edge of the page, possibly a page number or a reference mark.

Small vertical text or characters on the right edge of the page, possibly a page number or a reference mark.

